

鯖街道

古都であった京都では、鯖街道として知られる一連の道を介して若狭とつながっていました。当時の人は、これらの道を通り小浜から魚の入った籠を運んだのです。最短の距離は約 72 キロメートルで、江戸時代（1603～1867 年）では徒歩で通り、2 日かかりました。同時期の史料によると、若狭物として知られるこの地域の鯖やその他の魚介類は、何世紀にもわたり京都の市場で高く評価されてきたようです。